

「BOSICA ポルシェ 356 スピードスター」をお買い上げいただいたお客様、誠にありがとうございます。

今回のキットに付属のインストは、ボシカのオリジナルイラストを使用しておりますが、簡素なものになりますのでインストとして不十分な点もございます。また、発売までの10数年の間にイラストと部品構成が変わっている部分もあるため、こちらのページで解説いたします。

また次のページからは当店フィニッシャー、下間康弘のキット製作工程の画像を紹介いたします。極力キットのパーツを使用して製作しておりますので、参考にして下さい。

【各種金属ピンについて】



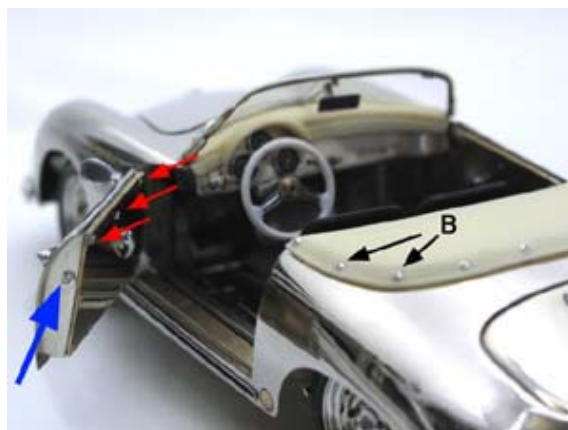
■金属ピンA（8本）
フロント/リアフード、左右ドアヒンジの軸に使用します。



■金属ピンB（10本）
トノカバーに使用します。



■20本入っているピンがドア内張り用です。（片側10本）
小袋の2本はドアの留め金に使用します。
ドア内張りはゴム製部品は使用せず、真鍮エッチングのパーツを使います。



●ダッシュボードカバーはこちらもゴム製部品は使用せず
レジン製のパーツを使います。

【スモールランプについて】



■フロント 台座無し
インストにはレンズの下に丸い台座のイラストがありますが台座は無しが正解です。



■リア 台座有り
リアは樹脂パーツの上に金属台座が有ります。

【製作工程1:ボディの加工について】



■このキット最大の難関がボディのバリ取りだと思います。箱を開けてまず、このボディをどう加工するかで頭を悩ませている方もみえると思いますが、とにかく硬い為、根気のいる作業となります。

電動工具を使い慣れていない方は糸鋸を使うのが一番失敗が少ないようです。修正のし難い素材の為、時間はかかりますが糸鋸で少しづつ切っていきます。

外側の大きな枠のバリを最初に切ってしまうと、ボディの剛性が低くなり、カットや整形がしづらくなります。最初にホイールアーチのみ、次に前後フード、インパネ、内装部分、最後に枠を切り落とすと、効率が良いと思います。









【製作工程2:フロア、インナーフレームの組み立て】

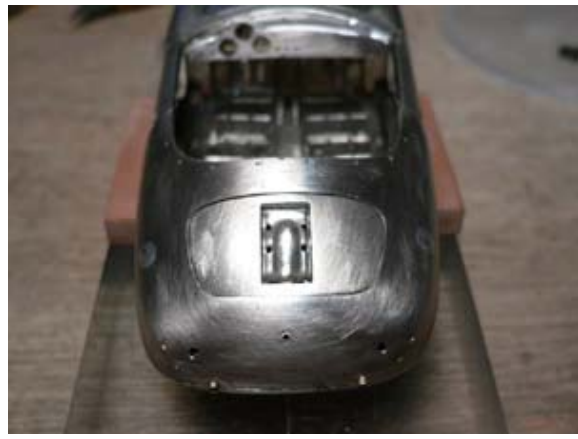




【製作工程3: 足回り、ボンネットヒンジの組み立て】





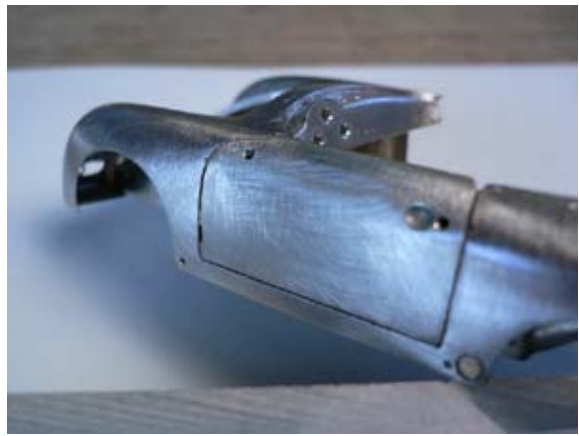
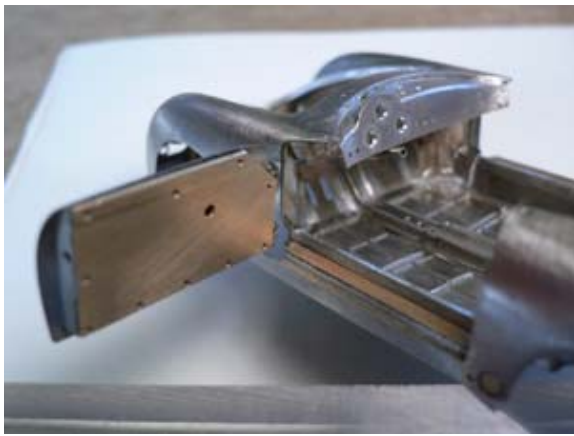


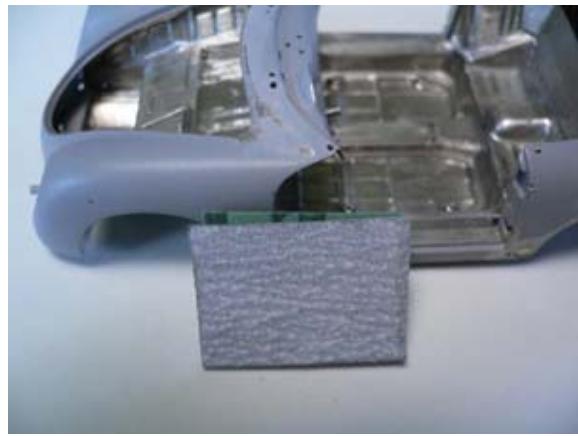
【製作工程4:ドアパーツ、ダッシュボード、トノカバーの組み立て】



■ドア内張りはゴム製のパーツがボシカオリジナルとなりますが、質感は悪くないものの、精度にかけるため、後から追加したエッチングのパーツを使用します。

ダッシュボード、トノカバーも同じくゴムパーツではなく、レジン製のパーツを使用します。





【製作工程5:内装、カーペットの組み立て】



■今回、ボディカラーはシルバー、シートはレッド、フロアのカーペットはベージュで製作します。カーペットはキットに付属していないので、目の細かな布を使用します。

手順はまず、大まかに布を切り出し、1枚ずつフラットクリアーに浸します。それをシャシーに押し付け、ドライヤーで乾かしながら固め、形を整えます。

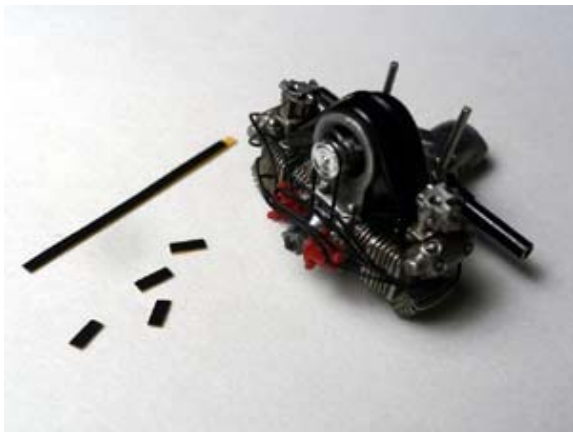
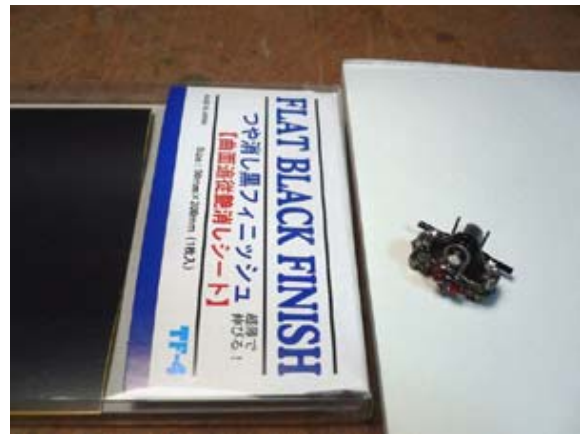
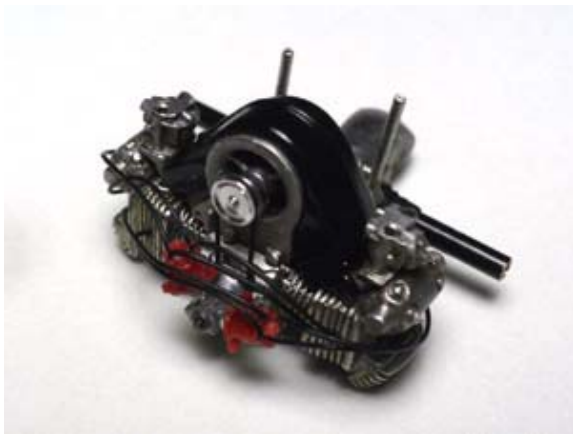






【製作工程6:エンジンの組み立て】





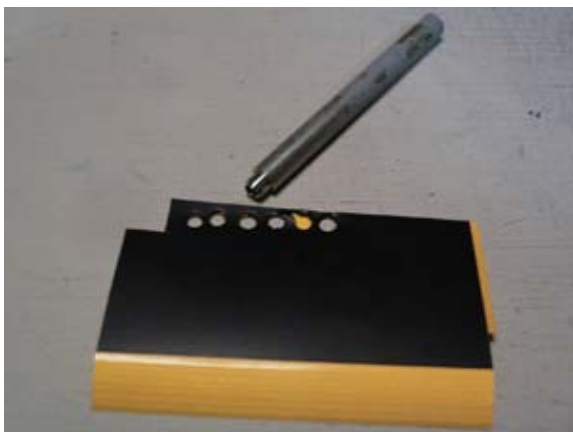
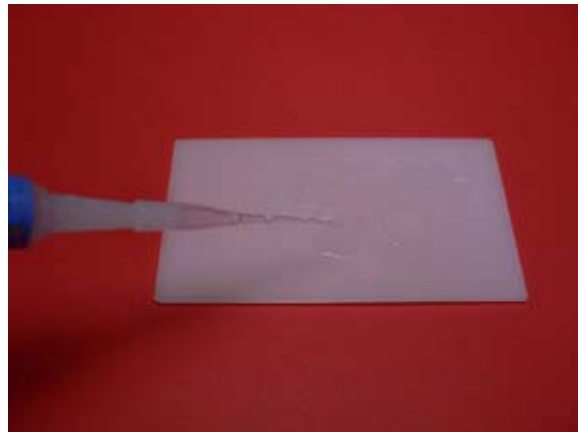
【製作工程7:シャシーの組み立て】

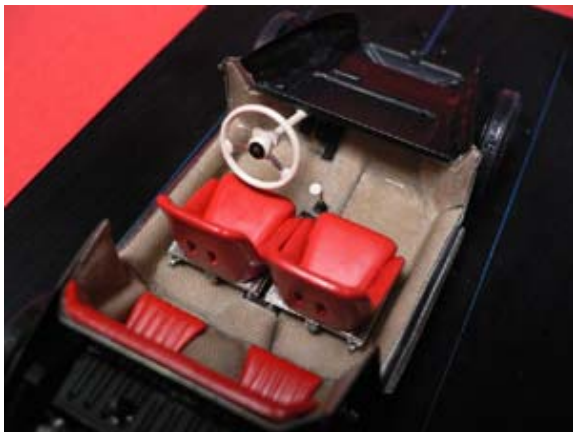






【製作工程8:内装の組み立て】





【製作工程9:最終組み立て】



